養護教育養成教育における養護実習

——第4報　ＳＴＡＩ検査からみた学外実習——

小林　壽子・大西真由実

Study on Practice Education for Nursing Teachers in the Training Institution

——(4th Report) "On-the-job training out of school" checked from the point of STAI Test.——

Hisako KOBAYASHI and Mayumi ONISHI

To obtain a license for a "school nurse," two kinds of "on-the-job training programs out of school" have been assigned to the students. They'll join the program after being given the quidance about how to do in a school but they must be very nervous for doing their training programs in their assigned school. Therefore, we examine their nervousness on the training programs as followed:

1) On the first Monday of their "on-the-job training," their nervous-nesses on the whole increase a little more than the previous day.

2) But they are not nervous on next Monday than before because they have been a little accustomed with their training.

3) To be strange, their nervousnesses have grown maximum on the last day of their "on-the-job training."

4) Their nervousnesses continue even after the training progarm was over.

Ⅰ　はじめに

養護教諭養成課程を有する大学に於いては教職に関する専門教育及び養護に関する専門教育に力を注いでいる。中でも学外実習につながる看護教育並びに養護教育に関する科目及びそれ等の学外実習事前指導については特に配慮されているのが現状である。しかしながら学内での教職及び専門教育に力を注ぎ，実習体験者との情報交換会及び授業外のガイダンス等を開催しても，学外実習に対して学生達は，「不安だ，緊張する」と訴えている。筆者達はこれらに対し，スピールバーガーの自己評定質問紙法[1)]（以下ＳＴＡＩ[注1]とする）により継続して調査を行い，知見を得たので報告する。

Ⅱ　研究方法

今回の研究は看護学臨床実習と養護実習について実施した。前者は原則として学生の出身地の総合病院（入院ベッド数 100床以上，診療科目としては内科又は小児科，外科又は整形外科は必ず設けられていること。それ以外に眼科，耳鼻咽喉科，皮膚科，歯科，産婦人科等が設置されていれば尚望ましい。）で実施することになっているが，適切な実習病院を確保することが出来なかった場合は，県内出身者と一緒に大学側で県内病院に配置する。後者は原則として学生の出身校の小学校，中学校，高等学校から１校を選択した。

Ⅱ・１　看護学臨床実習について

Ⅱ・１・１　対　　象

本学１年生（96Y[注2]学生43名，97Y[注3]学生45名）

Ⅱ・１・２　実施期間

96Y学生：平成９年３月

97Y学生：平成10年３月

Ⅱ・１・３　方　　法

学生の心理状態をＳＴＡＩ用紙に記入することで行った。

即ち実習開始の４週間前に，学内で一斉に実施したものを「実習前」とし，その後は各自の実習開始の第１日目を「第１週」，次に第２週目の第１日目を「第２週」，さらに最終日にも実施した。それらは全て１日の実習が終了した時点で学生自身が記入する方法で行った。

Ⅱ・２　養護実習について

Ⅱ・２・１　対　　象

本学２年生（95Y[注4]学生45名，96Y学生51名，97Y学生30名）

Ⅱ・２・２　実施期間

平成８年９年10年の５月から６月にかけての３週間

Ⅱ・２・３　方　　法

看護学臨床実習と同じであるが期間が１週間長いので実施回数も１回増となり実習終了約４週間後にも実施した。

注１）ＳＴＡＩ：State-Trait Anxiety Inventory

注２）96Y：1996年入学　　注３）97Y：1997年入学　　注４）95Y：1995年入学

Ⅲ　研究結果

ＳＴＡＩはスピールバーガーの不安の特性・状態理論に基づいて作られたものである。その質問項目は表１のようになっているが，「１.気がおちついている。」から始まり，「20.気分がよい。」で終わり，その時点での状態を４段階に分けそれぞれ点数配分をし，合計で表される。その結果は，図１で分かるように２種目の学外実習に同一の共通傾向がみられ，実習前より第１週は高くなり，第２週目にはやや減少し，最終日には大幅に減少し実習後はやや高くなったがそれらはどの時点よりも低かった。

臨床実習と養護実習を比較してみると，臨床実習の方が全体的に高かった。このことを更に分析すると同年度の学生について，その平均値は，表２に示すような結果が得られた。更に図１は，表２をグラフに表したものである。表３は入学年度による比較を行った。96Ｙ学生では実習前，第１週，最終日に於いて，臨床実習の方がそれぞれ3.7，2.0，2.8と高くなっていたが第２週はこの限りでなく，養護実習の方が臨床実習より0.1であるが高くなっていた。97Ｙ学生についてみると，上記年度の学生よりも養護実習の方が全てに於いて高く，それぞれ2.6，0.7，3.5，1.4となっていた。

表１　ＳＴＡＩの質問項目

記入日　19　年　月　日
（ＳＴＡＩ　ＦＯＲＭ　Ｘ－１）

自己評定質問紙

学籍番号　　男・女　　氏名

やり方：下に文章がならんでいますから、読んで、この質問紙を記入している今現在のあなたの気持ちをよく表すように、それぞれ文の右の数字に○をつけて下さい。考えこまないで、今の自分の気持ちによくあうと思うところに○をつけて下さい。

	全くちがう	いくらか	まあそうだ	その通りだ
1. 気が落ちついている	4	3	2	1
2. 安心している	4	3	2	1
3. 緊張している	1	2	3	4
4. くよくよしている	1	2	3	4
5. 気楽だ	4	3	2	1
6. 気が転倒している	1	2	3	4
7. 何か悪いことが起こりはしないかと心配だ	1	2	3	4
8. 心が休まっている	4	3	2	1
9. 何か気がかりだ	1	2	3	4
10. 気持ちがよい	4	3	2	1
11. 自信がある	4	3	2	1
12. 神経質になっている	1	2	3	4
13. 気が落ちつかず、じっとしていられない	1	2	3	4
14. 気がピンと張りつめている	1	2	3	4
15. くつろいだ気持ちだ	4	3	2	1
16. 満ち足りた気分だ	4	3	2	1
17. 心配がある	1	2	3	4
18. 非常に興奮して，体が震えるような感じがする	1	2	3	4
19. 何かうれしい気分だ	4	3	2	1
20. 気分がよい	4	3	2	1

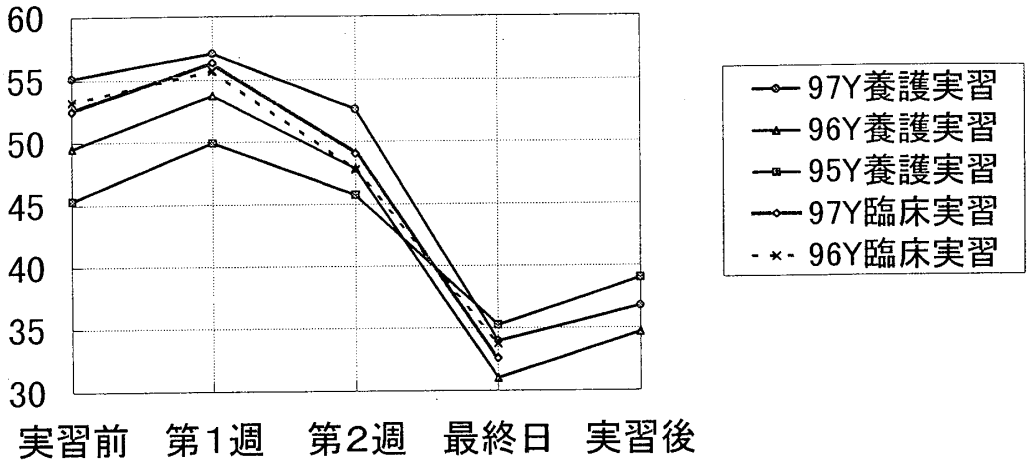

図1　過去3年間ＳＴＡＩ特性平均値の比較

表2　過去3年間のＳＴＡＩ特性平均値の比較

	実習前	第1週	第2週	最終日	実習後
97Y養護実習	55.13	57.07	52.60	33.97	36.77
96Y養護実習	49.51	53.75	47.82	31.02	34.69
95Y養護実習	45.33	49.93	45.73	35.24	39.02
97Y臨床実習	52.51	56.36	49.07	32.60	
96Y臨床実習	53.23	55.72	47.74	33.77	

表3　入学年度による比較

	実習前	第1週	第2週	最終日	実習後
97Y臨床実習	52.51	56.36	49.07	32.60	
97Y養護実習	55.13	57.07	52.60	33.97	36.77
97Y	+2.6（養）	+0.7（養）	+3.5（養）	+1.4（養）	
96Y臨床実習	53.23	55.72	47.74	33.77	
96Y養護実習	49.51	53.75	47.82	31.02	34.69
96Y	+3.7（臨）	+2.0（臨）	+0.1（養）	+2.8（臨）	

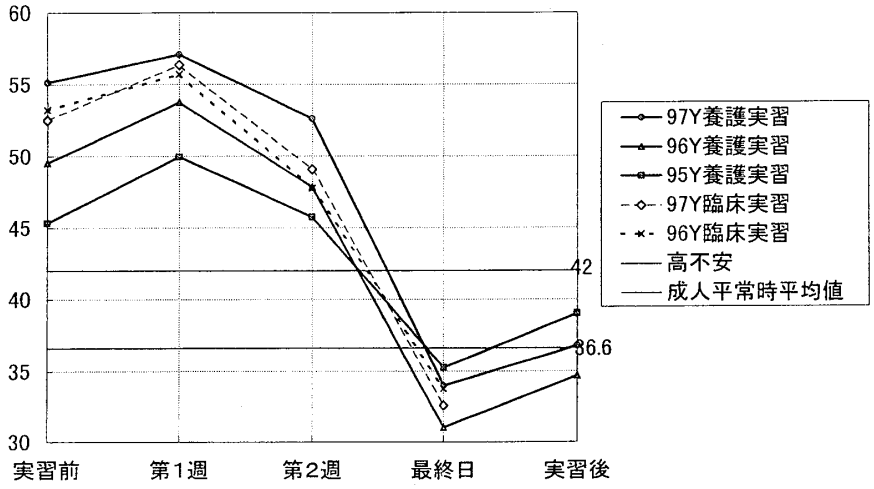

図2　ＳＴＡＩ平均値の実習時と平常時の比較

Ⅳ　考察と結語

中里・下仲らによると，成人の平常時の状態不安得点の平均値は36.6であり，42点以上を高不安と見ることができると報告している[1]。図２は，図１に36.6，42点のラインを加えたものである。今回の得点と比較してみると，養護実習，臨床実習共に実習の４週間前から学生は高い不安状態にあり，実習第１日目に不安はピークに達し，実習が進むにつれて徐々に低くなり，最終日には平常時より低い不安状態にあり，実習４週間後には平常時の状態に戻ったということができる。

臨床実習と養護実習の共通事項を考える時，図１でわかるように最終日は大幅に減少している。この理由としてやはり開放感及び安堵感であろうと思われる。しかしながら帰校後の実習後調査に於いては増加している。これについては終了時に感じた思いはその当時のものであり，実習中での様々な思いがむしろ気になり出したのではないかと考えられる。この事は臨床実習よりも養護実習に於いて顕著に現れている。

即ち実習環境の全く異なる臨床でありながら最終日の減少がそれを示している。臨床実習について見るとき，実習経過に従って養護実習と共通した状態がみられるが最終日の減少が実習前の状態よりは顕著な減少を示している。これは，真に心理的，精神的な安堵感と開放感に加え身体的な疲労感からの解き放された思いも強いと思われる。立ち仕事である看護学務の見学を主とする実習であることがゆえんしていると推察できる。

それに対して，養護実習には近年学級配属及びそこでの保健指導と，来室者への相談事項も増えており，又，教職員との人間関係に於いても経験の浅い学生にとっては学ぶ場であるが，一方でストレスになってくるのではないかと考えられる。

特に本年は実習校での保健指導の実施の有無がその要因となっていたことがわかった。このことは，今後益々養護教諭の専門性を生かした保健指導が教育職員免許法の改正により養護教諭が保健学習の担当者となりうる発令が出される事になった為，実習校においても，実習内容として重要性が増大する。

以上のことから今後の研究としてＳＴＡＩの多い学生に対し，校種，評価，実習内容等との関連を考え合わせ個別指導を増やし，より学生自身も充実と満足感の深まるような更なる努力を感じる次第である。

参考文献

1）河野友信他編（1990年）：心身医学のための心理テスト，27〜30，朝倉書房

2）中里克治他（1982年）：新しい不安尺度ＳＴＡＩ日本版の作成，108〜110，心身医学22

3）Spielberger.C.D.（1972年）:Anxiety as an emotional state. In C.D. Spielberger(ed.) Anxiety Current trends and theory. New York, Academic press.

4）小林壽子　大西真由実（1997年）：養護教諭養成教育における養護実習
第３報　ＳＴＡＩ検査にみられる養護実習，鈴鹿短期大学紀要第17巻，113〜125

5）小林壽子　大西真由実（1996年）：養護教諭養成教育における養護実習
第２報　ＳＴＡＩ検査にみられる養護実習，鈴鹿短期大学紀要第16巻，127〜137

6）小林壽子（1995年）：養護教諭養成教育における養護実習
第１報　免許法改正後の教育と養護実習，鈴鹿短期大学紀要第15巻，91〜99

7）小林壽子　藤井寿美子（1992年）：養護教諭養成機関における看護教育
第１報　臨床実習に関する調査研究，鈴鹿短期大学紀要第12巻，107